

# 新しい学びへの取り組み

校長 山田浩之

その四年生の教室では、様々なことに取り組んでいる子どもがいました。一つ一つのデータを丁寧に表に集計している子どももいます。二人組でデザインや色についてタブレットを使って相談している子どももいます。数人が教卓に集まって、それぞれが作った表から、読み取れることを担任と一緒に考えている子どもたちもいます。これは、子ども一人一人に応じた、そして、子ども一人一人が主体的に学ぶ算数の授業での風景です。

子どもたちは、新潟小学校で起きているケガを減らすためにポスターを作ることになりました。そこで、新潟小学校のケガに関するデータを基に、「学年」や「月」、「場所」、「ケガの種類」の四つの要素から二つを選び、表を作ります。出来上がった表から、ケガの傾向（例…〇月は、〇〇のケガが多いなど）を把握して、その実態に即したポスターを作成するという一連の学習です。

これまで標準的に行ってきた授業とは、進め方が違います。子ども一人一人が、自らの視点でケガの防止に関わる要素を選びます。その視点でデータが集計されるので、出来上がる表は、その子どものオリジナルの表となります。当然、データの読み取りも、独自のものとなり、ポスターで訴えることも一人一人違います。このような授業では、一人一人に応じた学びが生まれてくると考えています。

さらに、それぞれのペースで学びを進めていくことも、これまでとは違った学びの姿として表れます。一人で作業を進めたい時もあります。誰かとアドバイスをしたいこともあるでしょう。行き詰ったときは、何人かで、または担任と相談したいと思います。また担任と相談したいと思えば、全体として何時間使えるかは全員が同じなのですが、どの活動にどれくらい時間や手間を費やすかは、子どもによって違うのです。子どもは自分の学びを自ら調整しなければなりません。

担任は、伴走者として、一人一人の子どもに寄り添い、困っている子どもや教師のアドバイスを聞きたい子どもに語りかけます。正しい表が作られたか確かめたい子どもには、教師が作成した正しい表を与え、同じところでつまづいている子どもたちがいたら、集めて話し合いをします。そんな学びを、新潟小学校では、少しずつですが、試み始めています。

これからの学校の授業の一つの在り方として、子ども自身がもった初発の思考や解決したい課題を大切にしたり、学習過程における学び方を選択・調整したりすることが求められます。

新潟小学校は、このような学び方の可能性や課題を探っています。その成果と授業を十二月五日（金）に公開して市内外の先生に見てもらい、研修を深める会を行います。